

# 外国人留学生の結核対策は万全ですか？

## — 日本語学校・専門学校の教職員の皆様へ —

近年、日本で結核を発症する 20 代の若者の殆どを外国出生者が占めています。

特に日本語学校・専門学校に在籍する留学生での発症が増加しています。

学校内での感染拡大を防ぎ、学生の健康管理を円滑に行うため、以下の対応が重要です。

### ◆ 入学時の健診を確実に実施していますか？

学校保健安全法に基づく健診は感染症対策の基本です。健診未実施の場合、以下のリスクがあります：

- ・ 集団生活による感染拡大
- ・ 発見の遅れによる対応の長期化
- ・ 接触者検診などの負担増加

▶ 入学後できるだけ早期に実施しましょう。

### ◆ 入国前結核スクリーニングの活用はされていますか？

2025 年より、ベトナム・ネパール・フィリピンで入国前結核スクリーニングが開始されています。

対象学生は入国時に英文の結果報告書を持参します。以下の場合などは早めの相談が必要です。

- ・ History of TB(結核既往歴) = Yes
- ・ Chest X-ray(胸部 X 線) = abnormal

▶ 健診を待たず医療機関での検査・相談が可能です。  
(内容次第で健康保険が使える可能性があります)

### ◆ 日常の健康観察が早期発見につながります。

以下の症状がある場合は要注意です。

- ・ 咳・痰が 2 週間以上続く
- ・ 微熱 (特に夜間)、寝汗 (ねあせ)
- ・ 体重減少、倦怠感
- ・ 首やわきの下のしこりが大きくなる

▶ 結核診療に慣れた医療機関に早めの受診を

### ◆ 学校としての備えが重要です

留学生の場合は以下の点で準備が必要です。

- ・ 言語の壁に対する対応
- ・ 協力的な医療機関の確保

▶ 事前に調べておくといざというときに役に立ちます。

### ◆ 結核など留学生の健康については早めに保健所や医療機関に相談しましょう

文責 港町診療所 所長 沢田貴志

横浜市神奈川区金港町 7-6 TEL045-453-3673

(質問等は平日 13 時～14 時担当沢田まで)

